



アジアの医療ニーズに対応した医療機器システムの事業化への研究開発、実証へ

—先端医療イノベーションセンター提案の「革新的通信技術を用いた内視鏡診断支援システムの海外展開」プロジェクトがNEDO 事業に採択—

概要

九州大学先端医療イノベーションセンターは、このたび独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募する「環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト／先進的医療機器システムの国際研究開発及び実証」事業に、「革新的通信技術を用いた内視鏡診断支援システムの海外展開」のプロジェクト名称で応募し採択されました。

海外実証の実施国はタイで、事業期間は3年間（2011～2013年度）を予定しています。我が国が有する医療機器の優れた要素技術を活かし、現地の医療ニーズに合致した医療機器システムの事業化をめざした研究開発および実証を行います。

背景

日本の医療機器産業は、一部の機器で輸出競争力を保持するものの、欧米企業に大きく遅れをとっている状況にあります。一方、経済成長が著しいアジア諸国では、日本や米国を凌ぐ成長率で医療機器市場が着実に伸びており、欧米医療機器メーカーのアジア進出も勢いを増しています。我が国の医療機器メーカーは優秀な技術を保有しており、また日本人と似た体格をもつアジアにおいて欧米メーカーに対し優位にあると言えますが、これまで戦略的に医療機器システムの海外展開を目指した国際研究開発・実証の取り組みは必ずしも十分ではありませんでした。

内容

上記背景を鑑み、当センターは、国内の複数の研究機関及び企業と共同で、以下の特徴を備えた「革新的通信技術を用いた内視鏡診断支援システム」を提案し、採択されました。現地国の実証機関であるタイ国・チュラロンコン大学との密な連携により、スムーズな実証を行い、海外輸出を最終目標とした効率的デモンストレーションを実施します。

- ・我が国が世界に誇る内視鏡診断技術（高解像度立体表示・超高感度蛍光表示・超音波内視鏡表示）を活用し、従来の手術支援ロボットでは実現できない極めて高精度の診断支援機能を実現する。
- ・通信インフラが脆弱な地域であっても安定的な遠隔診断支援を可能とする、世界で類を見ない純国産技術の全く新しい通信方式を用いた通信機器を開発する。
- ・現地国のニーズに合わせたシステムのカスタマイズを行い、可能な限りの低価格を実現する他、遠隔医療ニーズや医療制度および薬事申請に関する規制等を十分に反映したシステム最適化を図る。

効果

本事業を通して実現される医療機器は、タイの医療・福祉の向上だけでなく、我が国の医療機器産業の活性化や海外展開の促進、さらに医療機器分野における国際的イニシアティブの確立にもつながると期待されます。

【お問い合わせ】

先端医療イノベーションセンター長 橋爪 誠

電話：092-642-6222

FAX：092-642-6224

Mail：mhashi@dem.kyushu-u.ac.jp

